

書道パフォーマンスによる作品。文字が光り輝いて見えました。



今月のテーマ

垂水高校文化祭に密着取材!!
広報担当者が行く 一統・垂高文化祭



先月号でお知らせした「二日間の垂水高校文化祭」。皆さんはご覧になられましたか？「行けなかった」と言う方も多かったのではないのでしょうか。今月は、広報担当者がその文化祭に密着取材を敢行いたしました。紙面を通して、その雰囲気をお伝えできればと思います。



SL School Life
垂水号
3 駅目



密着一日目

まず目を奪ったのは、正門近くに飾られた書道部による屋外作品展示。奥深い言葉から青春を感じる言葉まで「高校生はこんなにも達筆なのか」と思わせる作品の数々が来場者を出迎えました。

体育館では、井ノ上校長の「今年も生徒と先生が一体となって文化という大きな実を結ばせることができました」というあいさつで始まり、早速ステージ部門がスタートしました。各クラスの代表が火花を散らす「垂高最強決定戦腕相撲大会」や「高校生食育王選手権大会垂高バージョン（誰が一番りんごの皮を長くむけるか）」、「ダンス」や「大きな絵本」など、今年初となるステージが多く用意され、観客からは黄色い声援が飛び交っていました。その中でも、ひときわめ飲声が上がったものが2つ。1つは、垂水高校の特徴の一つである「生活デザイン科」による「被服製作発表会」です。分かりやすく言えば、高

校生による高校生のためのファッションショーです。授業の一環で、4月から時間を費やし、気持ちを込めて製作した作品の完成度は高く、それを着て歩く高校生は、「すばらしい」の一言に尽きるものでした。

2つ目は、最終ステージで行われた「書道パフォーマンス」です。ステージ上で大きな紙に筆を走らせ、作品を仕上げる様子は、観客の目を釘付けにしました。圧巻だったのは、最後に書かれた作品。「コブクロ」の名曲「永遠にともに」の曲に合わせて、一見、何も書いていないように思えた作品は、明かりを消すと「光り輝く文字」として浮かび上がりました。これは蛍光塗料とブラックライトを利用した「アート書道」でした。

密着二日目

展示部門では、一日目に使われた「被服製作発表会」の作品の展示をはじめとする「生活デザイン科」ならではの作品が並べられ、華道

作品やステンドグラス、貼り絵、おぼけ屋敷などが各教室で用意されていました。その中でも一番、目を引いたのは、「食物バザー」です。「生活デザイン科」の特徴の一つである「フードデザイン」の授業で培われたものは、食物バザーで十分に発揮され、カレーからアップルパイまで、おいしいものばかりが並んでいました。また、茶道部によるお茶会も開催され、賑やかな文化祭の中にも一息つくことができました。

文化祭の締めくくりは、再びステージです。合唱や昨年、同好会として結成され、今年から正式に部となった「ダンス部」による魅力溢れるダンスと吹奏楽による演奏ですべてのプログラムが終了しました。

二日間の垂高文化祭は、そのテーマのとおり「垂高に恋をした」生徒たちが、学校生活で培ったことを、十二分に表現し、まさに青春と言えるものでした。垂高生の皆さん、すばらしい文化祭をありがとうございました。